

遠野遠音 歌詞

柳田国男『遠野物語』および東北民謡による

・ 山之神歌

センヤハー山の神ヒー（拍手）
ヤ生まれは何処の奥山でヘエー（拍手）
ヤ奥山でヘエー（拍手）
センヤハーやまがさきの
榊（旧字）わがもと榊わがもとヤハー（拍手）
ヤ面白ヤハー（拍手）
ハアとやまがさきの
榊わがもと榊わがもとヤハー（拍手）
ヤ面白ヤハー（拍手）

・ 遠野郷は（遠野物語一）

1. 遠野郷は今の陸中上閉伊郡の西の半分、山々にて取り囲まれたる平地なり。新町村にては、遠野、土淵、附馬牛、松崎、青笹、上郷、小友、綾織、鱒（旧字）沢、宮守、達首部の一町十ヶ村に分かつ。近代或いは西閉伊郡とも称し、中古にはまた遠野保とも呼べり。

伝えいう、遠野郷の地大昔はすべて一円の湖水なりしに、その水猿ヶ石川となりて人界に流れ出でしより、自然にかくのごとき邑落をなせしなりと。されば谷川のこの猿ヶ石に落合うもの甚だ多く、俗に七内八崎ありと称す。内は沢または谷のことにて、奥州の地名には多くあり。

・ 田植踊

a. 「松前節」

松前のヤウアアーエ蝦夷が孤島でサンヨ
東ね昆布ヤーレコーホンノショデ、サンヨ
解いてヤウアアーエ解いてチャーハンノゴードサンヨ
しおんずでオーホンどヤーレコーホンのショデサンヨ

b. 「胴歌」

い ヤンドーショホイ お正月の御祝ひとての松の葉をば手に持ち
ろ オンショホイ 松の葉をば手にや持ちて祝ひほめてなるもの
は オンショホイ よごやもりの見れて見れや前田の早稲はそよめく

c. 遠野物語（語り）

14. 部落には必ず一戸の旧家ありて、オクナイサマという神を祀る。その家をば大同という。この神の像は桑の木を削りて顔を描き、四角なる布の真中に穴を明け、これを上より通して衣裳とす。正月の十五日には小字中の人々この家に集まり来たりてこれを祭る。またオシラサマという神あり。この神の像もまた同じようにして造り設け、これも正月の十五日に里人集まりてこれを祭る。

15. オクナイサマを祭れば幸多し。土淵村大字柏崎の長者阿部氏、村にては田圃の家という。この家にて或る年田植の人手足らず、明日は空も怪しきに、わずかばかりの田を植え残すことかなどつぶやきてありしに、ふと何方よりともなく丈低き小僧一人来たりて、おのれも手伝い申さんというに任せて働かせて置きしに、午飯時に飯を食わせんと尋ねたれど見えず。やがて再び帰りきて終日、代を掻（旧字）きよく働きてくれしかば、その日に植えはてたり。どこの人かは知らぬが、晩にはきて物を食いたまえと誘いしが、日暮れてまたその影見えず。家に帰りて見れば、縁側に小さき泥の足跡あまたありて、だんだんに座敷に入り、オクナイサマの神棚（旧字）のところに止りてありしかば、さてはと書いてその扉を開き見れば、神像の腰より下は田の泥にまみれていませし由。

17. 旧家にはザシキワラシという神の住みたもう家少なからず。この神は多くは十二三ばかりの童児なり。おりおり人に姿を見することあり。この神の宿りたもう家は富貴自在なりということなり。

18. ザシキワラシまたは女の児なることあり。同じ山口なる旧家にて山口孫左衛門という家には、童女の神二人いませりということ久しく言い伝えたりしが、或る年同じ村の何某という男、町より変えるとて留場の橋のほとりにて見馴れざる二人のよき娘に逢えり。物思わしき様子にて此方へ来たる。お前たちはどこから来たと問えば、おら山口の孫左衛門がところからきたと答う。これから何処へ行くのかと聞けば、その村の何某が居えにと答う。その何某はやや離れたる村にて、今も立派に暮らせる豪農なり。さては間ござ門が世も末だなどと思ひしが、それより久からずして、この家の主従二十幾人、茸の毒に中りて一日のうちに死に絶え、七歳の女の子一人を残せしが、その女もまた年老いて子なく、近きころ病みて失せたり。

・ 白望の山（遠野物語三十三）

33. 白望の山に行きて泊れば、深夜にあたりの薄明るくなることあり。秋のころ茸を採りに行き山中に宿する者、よくこの事に逢う。また谷のあなたにて大木を伐り倒す音、歌の声など聞こゆることあり。この山の大きさは測るべからず。五月に萱を茹りに行くとき、遠く望めば桐の花の咲き満ちたる山あり。あたかも紫の雲のたなびけるがごとし。されどもついにそのあたりに近づくこと能わず。かつて茸を採りに入りし者あり。白望の山奥にて金の樋（旧字）と金の杓とを見たり。持ち帰らんとするにきわめて重く、鎌にて片端を削り取らんとしたれどそれもかなわず。また来んと思ひて樹の皮を白くし柴としたりしが、

次の日人びとともに行きてこれを求めたれど、ついにその木のありかをも見出しえずしてやみたり。

- . 南部馬方節
- . 朝の出がけに山々見れば
霧のかからぬ山も無い
- . 南部片富士裾ねの原は
西も東も馬ばかり
- . 朝の出がけに山々見れば
黄金まじりの霧が降る

南部子守唄

- . 1. ヤットコやまだの白犬コ
一匹吠えればみな吠える
- . 2. ネネコ寝ろ寝ろねんねこせ
おらほ（我家・ルビ）のめんお（愛し児・ルビ）さんだねんねこや
- . ねんえろヤエエころころ
ねんこしておひたら（起きたなら・ルビ）ア
あずきまんまさ（に・ルビ）ごこ（肴・ルビ）かけて
もしもそれがおいやなら しろいままにさけのよ（魚・ルビ）
あんころにしょうゆだんご
もしもそれがおいやなら
いも（芋・ルビ）にほどこにさとなし（里梨・ルビ）こ

「遠野遠音」全音楽譜出版社、1992年）